



1月ピッコロだより



月	火	水	木	金	土
		1 やす 休み (冬期休暇)	2 やす 休み (冬期休暇)	3 やす 休み (冬期休暇)	4 初詣に行こう
6 しょうがつ お正月あそび をしよう	7 しょうがつ お正月あそび をしよう	8 しょうがつ お正月あそび をしよう	9 しょうがつ お正月あそび をしよう	10 しょうがつ お正月あそび をしよう	11 クッキング (ピザ)
13 やす 休み (成人の白)	14 クッキング (ピザ)	15 得意なことを 発表しよう	16 得意なことを 発表しよう	17 クッキング (ピザ)	18 わかりやすく 伝えよう (今年がんばること)
20 得意なことを 発表しよう	21 得意なことを 発表しよう	22 わかりやすく 伝えよう (今年がんばること)	23 買い物活動	24 得意なことを 発表しよう	25 得意なことを 発表しよう
27 わかりやすく 伝えよう (今年がんばること)	28 わかりやすく 伝えよう (今年がんばること)	29 身体を動かそう	30 わかりやすく 伝えよう (今年がんばること)	31 わかりやすく 伝えよう (今年がんばること)	

※専門職の来所予定日

公認心理師(松本)：8日(水)、28日(火)

言語聴覚士(永山)：7日(火)、10日(金)、20日(月)、21日(火)、29日(水)、30日(木)

理学療法士(樋口)：4日(土)、15日(水)、23日(木)、31日(金)

作業療法士(大平)：9日(木)、16日(木)、22日(水)、24日(金)、27日(月)

今月の主な活動：

《得意なことを発表しよう》・得意なことや好きなこと、頑張っていることを相手にわかりやすく紹介する。

《わかりやすく伝えよう》・今年がんばることや目標を友だちにわかりやすく伝える。

《クッキング》・みんなで役割を分担をしながら、楽しく調理に参加する。



★お知らせとお願い★

- ・提出書類につきましては、保護者の方より職員へ直接お渡しください。
- ・登園時間は、平日16時20分まで、土曜日（午前）10時20分まで、（午後）13時50分までをお願いします。
- ・お迎えは、平日17時20分～18時の間、土曜日（午前）11時50分～12時10分の間、（午後）15時20分～15時40分の間でお願い致します。また、お迎えの際は引き継ぎ20分前に番号札を準備しますので、来所された順に取ってお待ちいただき、引継ぎ開始時間になりましたらインターホンにてお知らせください。
- ・長期休暇中の登園時間は、平日15時30分まで、降園は16時45分～17時30分まででお願い致します。

【キャンセル待ちについて】

- ・キャンセル待ちの受け入れの連絡は、平日は当日の午前中まで、土曜日は前日までにトリアより連絡をさせていただきます。連絡がない場合は受け入れが難しい為、ご了承ください。

【欠席連絡について】

- ・平日は16時以降、土曜日（午前）当日9時30分以降、（午後）13時以降の欠席連絡となりますと、おやつ代（¥70/日）をご負担頂きますので、ご了承ください。また、当日のキャンセル連絡はコドモンではなく、お電話で連絡下さい。



【愛着障害のある子どもたちへの支援について】

最近、幼稚園や保育園、小学校および中学校での研修を依頼されると、「愛着障害のことについて話をしてほしい」と言われることが多くなってきました。友達や教師に対する暴言・暴力、授業妨害、学校からの逃避など、様々な行動を起こしてしまう子どもがどこの学校でも多くなっています。愛着障害の子どもたちは、その行動から「特別支援教育対象の子ども」と思われることも多いです。しかし、両者は全く異なります。

特別支援教育対象の子どもは、いわゆる先天的な脳の機能障害のある子どもたちのことです。一方、愛着障害のある子どもは、生まれてからの環境が要因となって引き起こされる子どもたちのことです。虐待、ネグレクト、愛情不足など、不適切な対応を受け続けた結果、二次的障害として起こってしまうものもあります。

こうした愛着障害のある子どもへの対応は、多くの時間と労力がかかってしまいます。一番の対応策は、「本人との丁寧な対話を紡ぎ上げる」ことです。今まで生きてきて苦しかったこと、辛かったことを聞き取り、ネガティブな体験に対して寄り添い、まずは本人の話をたくさん聞いてあげることです。子どもによっては、一度の面談では何も話らないこともあります。それでも構いません。「私は常にあなたの味方ですよ」という姿勢を示し続けることが大事です。加えて、一度の面談で解決しようとしなないことです。逆に、一度の面談で解決することなど到底できないということを認識しておくことも大事です。本人との丁寧な対話を紡ぎ続け、傷ついた心を少しずついやしていく姿勢が大事です。「この人に相談してよかった」「この人になら苦しい胸の内を話せるかも」本人に「信頼の糸口を感じさせること」が何よりも大事です。愛着障害は、子どもが安心して育つための土台となる愛着が十分に形成されないときに生じます。親の不在や無視、虐待、トラウマ体験などが背景となることが多いですが、これらの状況が改善されれば、子どもは愛着を育て直すことができます。

愛着障害は克服可能な課題であり、適切な支援や環境があれば、子どもは再び他者を信頼し、自分自身の価値を感じられるようになります。

愛着障害をはじめ、
支援に役立つ情報を発信しています。
登録していただければとても嬉しいです！



相談専門員
阿久根 剛

